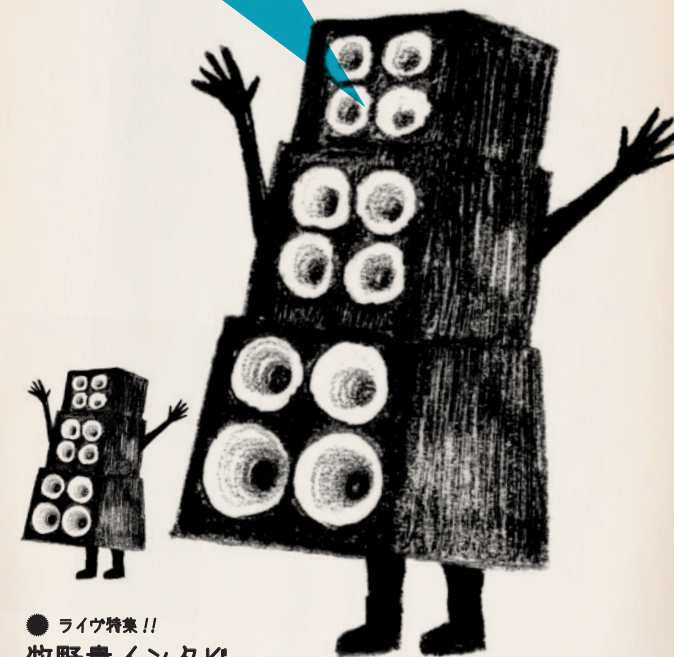




# 爆音通信 ②



● ライブ特集!!

牧野貴インタビュー  
いでけん企画 ライブ・アット・ジャウ!

● 『6 windows ～吉祥寺 remix～』

瀬田なつきインタビュー

● 監督へのメールインタビュー

幾原邦彦 (『少女革命ウテナ アドゥレセンス黙示録』)

● 空族ナイト

富田克也インタビュー

## ライブ特集!! ～一度しか味わえない、生の音を聴け!～

### 牧野貴作品&牧野セレクション 牧野貴インタビュー

今回の爆音映画祭では、タイガー・アワード受賞作品『Generator』に加え、上映のために映像が追加され成長を遂げる映画『2012 act.3』が上映される。この作品は、映像と牧野貴自身による演奏のセットでのLIVE上映となる。同じ上映は二度とない、新感覚な体験ができるだろう。

#### 通常上映と爆音上映の違い

爆音では、スクリーンからの光は熱に、音は突風へと変化して、目と体にダイレクトにぶつかって来て、映画鑑賞が身体的な経験へと変化する点だと思います。

#### 爆音上映についての印象

爆音という名前から、一般の方々には単に音が大きいだけの、「暴力的な上映形態」ではないかと疑われる事があるようですが、それは違うと考えています。一本一本の映画に微細な調整を施し、映画の持つ本来の力を引き出すのが爆音上映です。映画が仮想現実ではなく、生き物であるという気持ちになります。

#### 自身の作品を爆音上映するにあたり、楽しみな点

「Generator」の低音がどこまで表現出来るかです。

牧野さんの作品は、映像と音楽を融合させるという点で、簡単に例えるとDJとVJをイメージするのですが、そうではなく、映画としての作品であってDJ+VJとはどのように違うのかを教えてください。

DJ、VJの関係については、僕はあまり見た事も無い聞いた事も無いのでよくわからないのですが、違いはきっと、僕の映画作品を見れば理解出来るのではないかと思います。僕の映画での音楽の使い方は、方法論においてはイベント映像での映像、音楽の一体感とは異なり、どちらかというと劇映画の制作方法、あるいは美術の領域で行われて来た方法に近いと考えています。1度僕の映画を見て下されば、その種の疑問や意見は出なくなる事と思います。ぜひ爆音映画祭でそれを確かめてみてください。

『2012 act.3』について、上映するたびに映像と音楽が発展していく、映画をLIVEするというのも新しい作品だと思います。このような特殊な上映形態にしようと思ったきっかけはなんですか。

いくつかの痛切な問題意識が、僕にこの上映形態のアイデアを浮かばせました。

2006年以降、僕は1年に3~4本の短編映画を創って来ましたが、世の中の映画祭というものは常に新作を上映したりします。つまり自分自身の新作が、自分の過去の映画の上映の機会を奪ってしまうという現象が頻繁に起こり始めたので、その問題を解決したいと思うようになりました。1年に数本の映画を創るならば、その全てのエネルギーを1本に集中させたいと思ったのです。それと、この世の中に存在する多くの国際映画祭は、短編映画作家には上映も旅費もカバーしてくれない事が多いので、映画を出品、参加すればするほどに、作家は貧困に陥るシステムになっています。僕は、そのシステムから脱却したいと考えました。つまり、自分で音楽を演奏する、自分がいなければこの映画はこの世に存在出来ないということにすれば、どうしても僕の映画を上映したい映画祭は、旅費や上映料を払ってくれるようになります。

さらにもうひとつ、映画は音楽や演劇、パフォーマンス等の表現に比べて、一回性に欠けるとい指摘を受ける事が良くあるのですが、僕はそうは思っていない。映画は、上映しなければ映画としてこの世に存在出来ないという、傷い性質を持って鑑賞者と対峙し、想像力の交換を行うものだと考えているからです。見る人が変われば映画も変わると信じているし、僕は自分の作品において、そういった映画と鑑賞者の関係性を追求して来ているのです。そういった考えから、僕は『2012-』において、映画の一回性についても考えてみたいと思いました。映画は見逃してもいつか見られるさ、なんて言っているのと死んでしまう映画だってあるでしょう。1度見逃したら、

もう一生見る事が出来ない映画だってあっていいと思ひ、このような表現方法を選択しました。つまりまとめますと、自分がその場にいなければ、映画自体も存在出来ないシステムを作り上げ、僕自身が映画になればいいんだってそう思ったんです。(2012年6月6日 牧野貴)



牧野貴 (まきのたかし)

1978年東京都出身。日大芸術学部映画学科撮影コース卒。在学中より多数の8ミリ映画を制作。2001年、単身ロンドンに渡り、プラザーズ・クエイのアドリエで音楽と照明について学ぶ。帰国後もフィルムによる映画製作を続け、2004年以降、ライブスペースやギャラリーで個展上映を続けている。2012年、『Generator』がロッテルダム国際映画祭短編部門タイガー・アワード(最高賞)を受賞。日本人として初めての快挙となる。

7月3日(火)21:00~ 『Generator』&『2012 act.3』ライブ演奏&牧野貴セレクション同時上映  
\*『Generator』制作時の様子は爆音映画祭HPに掲載します。ぜひチェックしてみてください!

#### いでけん企画

### ライブ・アット・ジャウ!

text by 井手健介



以前、僕が入社するよりもっともっと前の話なのですが、ハウスシアターがライブハウスとしても運営していた、という時代があったそうです。無名のアマチュアバンドから、裸のラリーズ、ジャがたら、ゆらゆら帝国、THE YELLOW MONKEYまでステージに立ったそうです。ちょっと信じられないですよね!僕はそれを入社してから先輩方に聞く事になるのですが、驚いたのは、現在爆音をやっているシアター1だけでなく、50席のシアター2(通称ジャヴ)でもライブをやっていたという事でした。(ちなみにその時、boidの樋口さんは工藤冬里さんのシアター2でのライブを撮影していたそう!)しかし、どうやってあんな狭い場所でライブイベントを…と唖然としました。想像するにそれは、場所ならある、という1点のみから始まったような、手探りで拙さもある半面、そういう状況だから生まれたムチャクチャさの輝き、みたいなものがあったんじゃないかと…。勢いで映画用のイスを取っ払い、照明など自分たちでやりながら覚えて考えたり、ケーブルが足りなかったら自分たちでこしらえたり。そういうやり方の中でしか得られない手応えとともにその頃のハウスはあったんだなあと思いました。そして、その時のスタッフ達が後に樋口さんと出会い、爆音上映が始まるわけなのです。

なので今回のイベントも、勢いと緊張感とある種の思い込みでやってしまおうと思います。さすがにイスを取っ払えませんが(笑)、映画館として定着したこの場所でライブをやるとどうなるか、見てみたいですね。今回、僕が単純に観たいバンドの方々に出演をお願いして快くOKしていただきました。初日のAmerico (Vo)の大谷由美子さんは、先述のシアター2企画に当時のバンド、クララ・サーカスとして出演されていました!、おにんこ!、2日目の見汐麻衣さん、藤井洋平バンド、どれもライブが本当に素晴らしい人たちばかり!また、Punch DokiDoki Girls、母船では映画祭スタッフが前座として突撃します。あと、TRASH-UP!!の屑山さんとVJをやるのですが、いわゆるクラブVJとはまた違う、すごくサイケなVJになりそうです!こんな感じでガヤガヤとお届けする裏のほとりのラストワルツ、ぜひご参加いただければと思います!

7月9日(月)・10日(火) 21:15~ @ハウス2

●ヘア・スタイリストキス 無声映画LIVE『戦艦ゴキョムキン』7月5日(木)21:30~

ソ連の無声映画『戦艦ゴキョムキン』に、中原昌也のソロユニット、ヘア・スタイリストキスのライブ伴奏。物語はどのように転がっていくのか。誰も予想できない展開が待っている!

\*『戦艦ゴキョムキン』については、爆音通信 vol.1「来たれ、見よ!めくるめくロシア映画の世界」もチェック

●THE 5.6.7.8's LIVE in [キル・ビル] ナイト ALL NIGHT EVENT!!! 7月14日(土)23:00~ライブ/24:00~[キル・ビル1&2]なんと「キル・ビル」に出演&演奏していたガールズバンド、THE 5.6.7.8's がバウスのステージに登場!!「キル・ビル」ファンにはたまらないアツい夜が待っている!彼女たちの音を心に刻め!“爆音キル・ビル”に向けての準備は整った!!

# 街頭上映『5 windows ～吉祥寺 remix～』 瀬田なつきインタビュー

5windows は昨年、横浜トリエンナーレや黄金町バザールなどの街ぐるみのアートプログラムの一環として上映されましたが、今回の吉祥寺での上映は横浜となにか変わりそうな所はありますか？

突然、映像が街の4つの壁に映写され、そこを観客が移動することは、横浜以上に不思議で今までにない映画体験になるのではないかと思います。その想像がたいスリルを含めて楽しんで頂きたいです。音を少し吉祥寺に合わせて編集し直しています。そして、スクリーンが、横浜より大きくなりそうなので私も楽しみです。

5windows は『映画』という枠組みに収まりきらない、映像インスタレーションとも括られるような作品、と認識しているのですが、そういった作品が爆音映画祭にとりあげられたことについて、いかがでしょうか？

方法は変わっているけれど、「映画」として、作ったので、このように上映されるのは嬉しいです。

上映場所の下見で吉祥寺を巡った時に、『吉祥寺の街で撮りたい』という言葉も出ましたが、瀬田さんから見た吉祥寺の街の魅力などありましたら教えてください。

今まで、夜のパウスシアターまでの商店街くらいしか歩いたことがなかったのですが、上映場所を回っているうちに、井の頭公園とか喫茶店とかコジャレタお店とか、昼間に行ってみたいと思いました（願わくば、みなさんもそう思って頂きたい！）。樋口さんの吉祥寺解説を聞きながら歩いたせいもあるかもしれないですが、吉祥寺の持つ、いろいろな記憶を重ね集めて撮ってみたいですね。

最後に、何か一言ありましたらお願いします。

昨年の黄金町の風景が、吉祥寺に映る。という体験が、どういうものか、まだ私にもはっきり想像はできませんが、暗闇にスクリーンがあればそこは映画館だと思います。そんな、ちょっと、過激で大胆な上映を見に来て下さい。

# 監督へのメールインタビュー

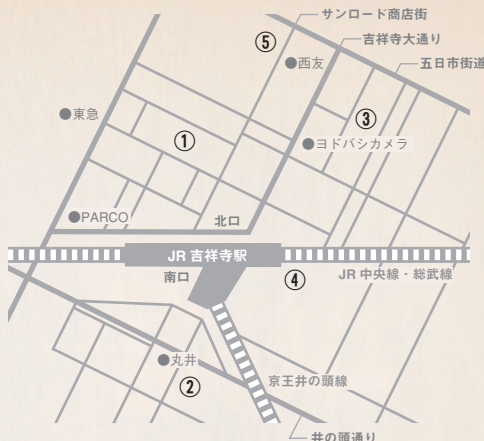
✉ 幾原邦彦 (『少女革命ウテナ アドゥレセンス黙示録』監督)



- ① 通常上映と爆音上映の違いについてどう思われますか。
- ② 爆音上映についての印象をお答えください。
- ③ 爆音上映が楽しみなシーンを教えてください。

『少女革命ウテナ アドゥレセンス黙示録』  
6月30日(土) 11:15～ 7月3日(火) 14:50～  
\*当日券も少し出ます！

©1999 少女革命ウテナ制作委員会



## 街頭上映『5 windows ～吉祥寺 remix～』詳細

昨年、横浜で街頭上映された映画『5 windows』が、今回さらに姿を変えて、爆音映画祭で上映されます。ふたつの新しい5windows がそこに生まれます。  
7月7日(土)、8日(日)は街頭上映吉祥寺ヴァージョン、9日は劇場用ヴァージョン。  
街頭上映は、①吉祥寺 coppice 3 階屋上庭園、②武蔵野公会堂旧レストラン壁面、③吉祥寺図書館自転車置き場、④atre 吉祥寺西荻窪寄り高架下壁面、という4か所。  
19時過ぎからの上映予定。横浜でやったヴァージョンの音を全部、吉祥寺の音にいれかえます。爆音会場で上映する7月9日(月)の『5 windows』は、街頭上映したものをさらに劇場用に再編集、音もまた、全部爆音仕様に大変えた全く新しい作品になります。  
『5 windows』街頭上映ヴァージョンをご覧になる方は、当日18時30分にバウス集合。簡単な説明、地図、チケットを受け取り、それぞれ好きな場所へと赴き好きな順番で4つの短編を見て、21時以降に⑤パウスシアター2へ。パウスシアター2では、21時から23時くらいまで、第5話を繰り返し上映、という流れになります。街頭上映の4つの短編もバウス2での第5話も繰り返し上映していますので、好きな時間を選んでご覧ください。  
協力：武蔵野市／武蔵野市観光推進機構／財団法人武蔵野市開発公社／武蔵野公会堂／武蔵野市立吉祥寺図書館／コピス吉祥寺／アトレ吉祥寺／吉祥寺オデオン／NPO法人ドリフターズ・インターナショナル／本田プロモーション／NECディスプレイソリューションズ



『5 windows ～吉祥寺 remix～』  
7月7日(土)・8日(日)18:30～ 街頭上映+シアター2にて通常上映  
『5 windows 劇場用再編集 ver.(仮)』  
7月9日(月)21:00～ 爆音上映

- ① 通常上映は「映画としての楽しみ」がメインです。爆音上映は、音楽や効果音などが際立つので、ロックコンサートのように楽しむものだと思います。
- ② 個人的に好きな作品がよくリストアップされていて、そういう意味で「自分と趣味があっている」と以前から思っていました。今回の上映は「やっぱり相思相愛だったことを知った」みたいな嬉しさがありません(笑)
- ③ オープニング曲や合唱曲、J・A・シーザーの音楽を爆音で聴ける。ウテナの爆音上映は「事件的音楽体験」として楽しみです。

# 『雲の上 インターナショナル再編集版』について 富田克也インタビュー

富田「これはね、韓国のチョンジュ国際映画祭っていうのがあって、『国道』と『サウダーチ』と『雲の上』の3本をやってくれるという話になったんですよ。で、『雲の上』に英語字幕を付けようって話になって、字幕付ける過程で見直したら、切りたくなっちゃって。何で英語字幕付けながら切りたくなっちゃっていうと、英語の表現ってシンプルじゃん。翻訳して下さった方が映画の翻訳専門の方じゃないから結構ギッチリ真面目に翻訳してくれたのね。それを俺が辞書を引き引きシンプルな表現にしていたのね。そうすると外国の人がこの映画を英語で見るとこういう感じになってくるのだから、おぼろげに見えてきたの。そしたら、共通の前提がない外国の人にはこれ伝わらないと思って。もっとシンプルにした方が伝わるんじゃないかと思って。それでインターナショナル版を作ったの。」

——この上映には日本のお客さんも来てほしいので(笑)、日本のお客さんに向けて、新しく生まれ変わった的なことを言ってほしいんですが。

富田「うんとなね…テンボが良かった(笑)。やっぱり若いとき作ったものだからさ、後になって見直すとさあ、うわあ〜ってなる訳ですよ。『サウダーチ』(2時間50分)だったいつの日かそういう日が来るかも知れないさ。この長さで今じゃパーフェクトだと思ってる。『雲の上』もパーフェクトだと思ってた訳さ。だから、さらにパーフェクトになった！」

——いいですね(笑)

富田「普通、監督の再編集バージョンって長くなるのに、これは短くなった。めったにないよ、ディレクターズカット版で短くなるってことは。」



『雲の上 インターナショナル再編集版』  
7月13日(金) 21:15～@シアター2

# BAKUON FILM FESTIVAL 2012

6.29 FRI >>> 7.14 SAT

## Kichijoji Baus Theater

第5回爆音映画祭  
6月29日(金)～7月14日(土)  
吉祥寺パウスシアター  
問合せTEL 0422-22-3555

### www.bakuon-bb.net

編集・構成(爆音映画祭2012スタッフ): 甘利類、加勢恵理子、加藤文、金長隆子、黒田千穂  
発行: 爆音映画祭実行委員会